

自然観察ちば 25 周年記念

尾瀬一泊研修会

吉田初子（船橋市）

協議会に尾瀬で活動されている方がいらっしゃると聞き、お話を伺いたいと思っていました。今回 25 周年記念行事として行われた尾瀬自然観察会でその願いが叶えられました。講師は尾瀬自然保護ネットワークで活動されている前田さんご夫妻です。

当日は幕張本郷駅前をバスで 6 時 30 分に出発した。登山口の鳩待峠までは 5 時間余り、途中で今回の研修会担当で事務局の小西さんの挨拶があり、参加者が簡単な自己紹介をする。講師の前田さんからはテキストを使って尾瀬の歴史と自然、湿原の破壊と保護運動などのお話を伺う。そして「NACS-」の「自然観察から始まる自然保護」のモットーを思い浮かべて「五感を働かせて楽しみましょう」の言葉で、心は早くもアヤマ平へ。アヤマ平は 30 年代に人の踏み付けで破壊が進み 40 年近く経った今も復元作業が続けられている。登山口の鳩待峠で昼食を済ませて山荘の横を登ると、登山道にはユキザサ、ツクバネソウ、マイヅルソウ、ギンリョウソウ、イワカガミ、ゴゼンタチバナなど、楽しみにしていた花が沢山見られた。アヤマ平は私が想像していたよりもひどく、まだ土がむき出しの場所もあって、湿原の自然は一度壊れてしまうと復元がどんなに難しいかを知った。アヤマ平からの至仏山、景鶴山、燧ヶ岳の眺めが美しく湿原が早く戻って欲しいと思う。富士見小屋下の水場で音を立てて流れる冷たい水で元気を取り戻し、花や樹木を見ながら賑やかに林道を下ってバスで今夜の宿の会津高原ホテルへと向かう。

2 日目の朝はホテルの前に広がる草原で鳥の観察会に参加、頭と背中が赤くて綺麗なニューナイスズメの雄を教えてもらった。周りの林から聞こえる鳴声は私には聞き取れなかったが、皆さんには分かるらしくホオアカ、シロハラ、ホオジロなどが聞こえていたようだ。今日のコースは鳩待峠から山ノ鼻に下り尾瀬ヶ原から牛首分岐で戻る。下り始めてすぐに元気な鳥の声に迎えられ、メボソムシクイとコマドリと教えられ、今度ははっきり聞き取る事が出来た。素晴らしい天気、湿原には紫色のカキツバタ、紅色のサワラン、朱鷺色のトキソウ、青色のタテヤマリンドウ、黄色のニッコウキスゲ、白いヒツジグサが輝いていた。会いたいと思っていた日本で最も小さいハッチョウトンボにも会えた。オスは真っ赤でよく目立つ、地味なメスは見つけ難いがどちらもたくさんいて感激。木道の上で前田さんから至仏山の荒廃とニホンジカの被害の様子を伺った。見上げる私たちにも荒れて地肌の出た登山道がよく分かる。至仏山は保護のための調査が行われ、ニホンジカは前田さんも個体調査をされているようだ。

帰りのバスの中は 2 日間山道を歩き通した満足感と安堵感でなんともいい感じ。一言感想では、<晴天に恵まれ沢山の花に出会えて幸せな 2 日間でした。写真を沢山写しました。尾瀬の素晴らしい自然を守るために何が出来るか考えたい。シカの害からどうしたら守れるか>など、みんなが尾瀬の素晴らしさに感動し、環境保護を考えさせられたとの感想だった。神さんが聞かせてくれたメボソムシクイとコマドリの鳴声に爽やかな風が流れ、山田さんのクイズに笑い声が響いて帰りのバスも楽しかった。事務局の小西さんとお世話下さった皆さま、講師の前田さんご夫妻、ご一緒した皆さん有難うございました。